3-874-291-**04** (1)

デジタルワイヤレス
レシーバー

取扱説明書

DWR-S01D

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

安全のために

ソニー製品は安全に十分に配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

5、6 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検を実施する

5 年に 1 度くらいは内部の点検について、お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご相談ください。

故障したら使用を中止する

お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- 異常な音、におい、煙が出たら
- 落としたら

❶ **電源を切る。**
❷ **お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口に修理を依頼する。**

炎が出たら

お買い上げ店またはソニーの業務用商品相談窓口に修理を依頼する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告
この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を禁止する記号

目次

⚠警告 火災 感電

下記の注意を守らないと、**火災**や**感電**により**死亡**や**大けが**につながることがあります。

⚠注意

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の物品に**損害**を与えることがあります。

指示

指定の電圧および極性で使用する

規定外の電圧および極性で使用すると、火災の原因となることがあります。
この取扱説明書に記されている電圧および極性で使用してください（34 ページ参照）。

注意

ボタン操作時にアンテナに目を近づけない

本機上面のボタンを操作するときに目を近づけすぎると、アンテナで目を突き、けがにつながることがあります。

指示

使用時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま使用すると、事故やけがなどの原因となります。

禁止

雨の当たる場所や、油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では使用しない

上記のような場所や、取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用すると、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

指定以外の機器は接続しない

取扱説明書に記されている機器以外の機器を接続して使用すると、火災や感電の原因となることがあります。

指示

カムコーダー、アダプター取り付け時には、ネジを確実に締める

この取扱説明書に記載された方法（10 ページ参照）でしっかり取り付けないと、故障やけがの原因となることがあります。

カムコーダー、アダプター取り付け時には、指挟みに注意する

注意を払わずに取り付けを行うと、指を挟み、けがの原因となります。

カムコーダー、アダプター取り付け時には、誤挿入防止ピンが刺さらないように注意する

注意を払わずに取り付けを行うと、ピンが刺さってけがの原因となります。

分解や改造をしない

分解や改造をすると、感電の原因となることがあります。

その他の安全上のご注意

重要

機器の名称と電気定格は、背面に表示されています。

特長

DWR-S01Dは、ソニーの業務用カムコーダーや別売りのDWA-01Dデジタルワイヤレスアダプターと組み合わせることで、806 - 810MHz帯を使用した特定小電力無線局（B型）を2波受信できるカメラスロットインタイプデジタルワイヤレスレシーバーです。

デジタルワイヤレスとは

次のような機能を持つシステムです。

- 有線マイクに迫る高音質伝送
- 妨害波に強く、安定した無線伝送
- より多チャンネルの同時運用
- 暗号化伝送
- メタデータの送信

免許不要のB型規格

簡単なボタン操作でB型帯域30チャンネルの切り換えが可能です。

カムコーダースロットインタイプの2チャンネルレシーバー

2台のトランスミッターの同時運用に対応できるカムコーダースロットインタイプの2chレシーバーです。スロットインに未対応のカムコーダーでもワイヤレスアダプターDWA-01D（別売り）を使うことで、取り付けることができます。

フルデジタルオーディオENGシステム

本機に対応したスロットインタイプのカムコーダーに装着することで、フルデジタルオーディオENGシステムの構築が可能です。
未対応のカムコーダーでも、AES/EBU入力端子があればワイヤレスアダプターDWA-01D（別売り）を使ってデジタル接続が可能となります。

周波数スキャン機能を搭載

未使用の電波を探す「クリアチャンネルスキャン」と、使用中で受信可能なチャンネルを探す「アクティブチャンネルスキャン」の2種類の周波数スキャン機能を搭載しています。これにより、スピーディーで安全な周波数チャンネルのセッティングが行えます。

堅牢な構造

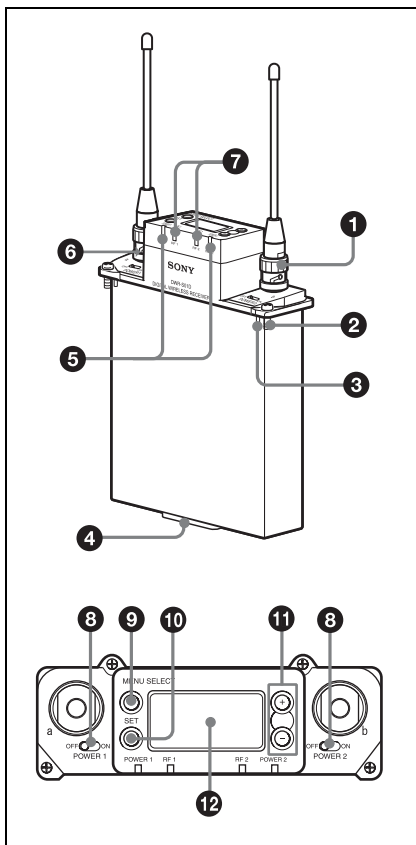
屋外での使用を想定し、堅牢かつ防塵に配慮した構造で、防滴II型の性能も有しています。

新機能ワイヤレスリモートコントロール搭載

デジタルワイヤレストランスミッターの設定を本機のディスプレイ画面で確認しながら遠隔コントロールができます。

有機ELディスプレイ

反応が早い有機EL表示素子（Organic Light-Emitting Diode）の採用により、設定状況を鮮明かつ正確にリアルタイムで表示することが可能になりました。

各部の名称と働き

❶ アンテナとアンテナ端子（BNC タイプ）

付属のアンテナを接続します。
本機は、短いヘリカルアンテナと長いホイップアンテナを付属しています。

❷ 取り付けネジ

カムコーダーやワイヤレスアダプター DWA-01D に取り付けるときに使用します。

❸ 誤装着防止ピン

本機に対応していないカムコーダーやアダプターへの誤装着を防止します。

❹ アクセサリー端子

カムコーダーやデジタルワイヤレスアダプター DWA-01D と接続し、電源やオーディオ信号、制御信号のやり取りを行います。

❺ POWER（電源）インジケーター

電源が入ると緑色に点灯します。
チューナー 1 とチューナー 2 のそれぞれの電源状態を POWER1、POWER2 インジケーターで表示します。

❻ USB 端子

市販の USB キーボードを接続すると、メニュー操作がキーボードで行えます。
デジタルワイヤレストランスミッターを付属の USB ケーブルで接続すると、秘匿通信用の鍵情報を交換することなどができます。

◆ USB キーボードの使いかたについては、「USB キーボードの使いかた」（16 ページ）をご覧ください。

◆ 秘匿通信用の鍵情報交換については、「秘匿通信機能を使う」（14 ページ）をご覧ください。

❼ RF（高周波）インジケーター

チューナー 1 とチューナー 2 それぞれの高周波入力レベルを表示します。RF スケルチレベルの設定によって表示レベルは以下のように切り替わります。

RF スケルチレベル OFF 時：

緑色点灯：25dBμ 以上
赤色点灯：15 ～ 25dBμ
消灯:15dBμ 未満

RF スケルチレベル 20dBμ 時：
緑色点灯：30dBμ 以上
赤色点灯：20 ～ 30dBμ
消灯:20dBμ 未満

❽ POWER（電源）スイッチ

チューナー 1、チューナー 2 の電源を個別に ON/OFF できます。

❾ MENU SELECT（メニュー選択）ボタン

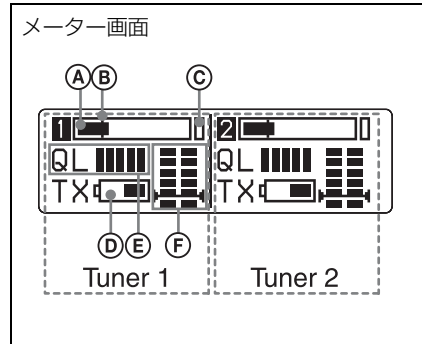
ディスプレイに表示されるメニューの種類を切り換えます。

❿ SET（セット）ボタン

ディスプレイに表示された機能を変更したり、調整した値を決定したりします。

⓫ ＋または－ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。
＋ボタンを押しながらチューナー 1 またはチューナー 2 の POWER スイッチを ON にすると、ON にしたチューナーがクリアチャンネルスキャン機能のスキャン動作に入ります。
－ボタンを押しながらチューナー 1 またはチューナー 2 の POWER スイッチを ON にすると、ON にしたチューナーがワイヤレスリモートコントロール機能のペアリング動作に入ります。

⓬ ディスプレイ部

Ⓐ オーディオ入力レベルメーター

受信したオーディオ信号のレベルを表示します。

Ⓑ 基準レベルゲージ

基準入力レベルを示しています。
トランスミッターの入力レベル選択機能でマイクレベルを選択している場合には、－ 58dBu（－ 60dBV）を示し、ラインレベル設定時には＋ 4dBu を示しています。

Ⓒ ピークインジケーター

オーディオ信号がひずみはじめる 3dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

Ⓓ 電池残量表示

受信したメタデータにより、トランスミッターの電池の残量を 8 段階で表示します。
電池残量表示が点滅を始めたら、すぐにトランスミッターの乾電池を 2 個とも新しいものに交換してください。

◆ トランスミッターの乾電池交換については、トランスミッターの取扱説明書をご覧ください。

Ⓔ シグナルクオリティーレベルメーター（信号品質メーター）

受信したRF信号の品質を表示します。
一定時間の間でのデータエラーが多く発生した場合には、バーグラフの高さが低くなります。
トランスミッターが遠く離れRF信号の受信感度が下がったり、妨害波を受信した場合など受信信号の品質の悪化を監視することができます。

Ⓕ RFレベルメーター

RF入力レベルを表示します。入力レベルにより点灯するゲージの数が変わります。
スケルチ機能を設定した場合、スケルチのかかるレベルがRFレベルメーター上に重ねて表示されます。
RF入力レベルがスケルチレベルゲージ以下になった場合は、出力音声をミューティングします。

準備

カムコーダー本体に取り付ける

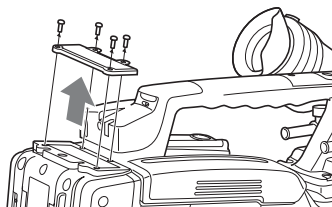
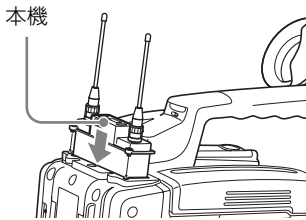
本機に対応したソニー製カムコーダーのワイヤレスレシーバー挿入口に取り付けることができます。
デジタルワイヤレストランスミッターでデジタル変換された音声が、デジタルのままカムコーダーに記録されるフルデジタルシステムを構築できます。

ご注意

本機をソニー製カムコーダーと組み合わせて使うときは、双方のバージョンの確認が必要です。

◆ バージョン情報について詳しくは、ソニーの営業担当者にお問い合わせください。

1 カムコーダーのワイヤレスレシーバー挿入口のカバーを外し、本機を挿入します。

挿入方向を間違わないために、取り付けネジと、誤挿入防止ピンの位置を確認してから挿入してください。

2 奥まで挿入できたことを確認してから、４か所の取り付けネジでしっかりと固定してください。

◆ 運用方法については、カムコーダーの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

本機に対応していないカムコーダーの場合、本機の誤挿入防止ピンがカムコーダーに当たって装着できません。

◆ 対応機種に関しては、ソニーの営業担当者にお問い合わせください。

デジタルワイヤレスアダプターを使う

本機を別売りのアダプター DWA-01D に取り付けると、ポータブルワイヤレスレシーバーとしてご使用いただくことができます。

◆ 取り付けかたについては、DWA-01D の取扱説明書をご覧ください。

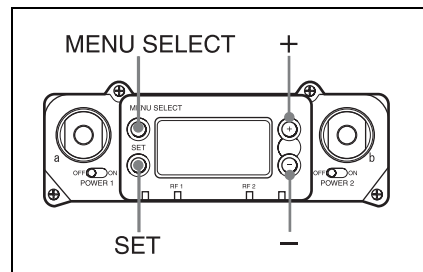
受信チャンネルの設定

本機は、B 型帯域 30 チャンネルから 2 チャンネルを選択して受信できます。
本機には混信を起こさないチャンネルの組合せ（グループ）が用意されています。同一エリア内で、複数台のワイヤレスマイクやトランスミッターを同時に使用（多チャンネル同時運用）するには、電波の混信を避けるため、同一グループ内のチャンネルを使用する必要があります。

グループ / チャンネルを選択する

以下の手順でグループ（GP）とチャンネル（CH）を設定します。

◆ グループとチャンネルについては、CD-ROM に収録されている Frequency List（周波数リスト）をご覧ください。

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（18 ページ）をご覧ください。

1 MENU SELECT ボタンを押して、RX1/RX2 メニューを表示させる。

2 ＋または－ボタンを押して、GP/CH画面を表示させる。

3 設定項目が点滅するまでSETボタンを長押しする。

4 ＋または－ボタンを押して、チャンネルを選択する。

5 SETボタンを押して決定する。

ワイヤレスリモートコントロール機能が動作している場合：

本機のGP/CH設定を変更すると、本機にペアリングされているトランスミッターにGP/CH設定を送ることができます。

ご注意

本機で設定した受信チャンネル（CH）が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH画面が表示されます。
その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューでREMOTEをOFFにして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

グループALLについて

全チャンネルを選択できるグループです。お客様独自の多チャンネル運用プランでご使用ください。
グループALLは混信に対する考慮はされていません。多チャンネル同時運用の場合はALL以外でのグループ設定をおすすめします。

同系統グループの隣接使用について

同系統のグループ（例：B-1、B-2、B-3、B-4、B-5、B-6など）の組合せにかぎり、複数のグループを近接して使用することができます。この場合、システム間の距離を30m以上離してください。

同一グループ / チャンネルの隣接使用について

仕切りや障害物がなく互いが見通せる広い場所で、2か所（2システム）以上を同一グループ、同一チャンネルで使用する場合は、混信を避けるため、目安としてシステム間の距離を100m以上離してください。

アクティブチャンネルスキャン機能を使う

GP/CH選択機能で選択されているGP（グループ）内の周波数リストからソニーのデジタルワイヤレスの電波を探します。

検知する電波の条件

- ソニーのデジタルワイヤレス信号であること
- 本機のRFスケルチのレベル以上であること
- 秘匿通信設定が合っていること

1 MENU SELECTボタンを押して、RX1/2メニューを表示させる。

2 ＋または－ボタンを押して、ACT CH SCAN画面を表示させる。

3 設定項目が点滅するまでSETボタンを長押しする。

4 ＋または－ボタンを押して、YESを選択する。

スキャンが始まります。ソニーのデジタルワイヤレスの電波を検出したら、周波数を表示してスキャンを停止します。
NOを選択すると、スキャン機能を終了します。

5 音声を確認し、検出された電波を受信するときは、＋または－ボタンを押してSETを選択し、SETボタンを押す。

別のチャンネルを探す場合は、＋または－ボタンでCONTINUEを選択し、SETボタンを押してください。

ご注意

グループ内の周波数を2周探してもソニーのデジタルワイヤレスの電波が見つからなかった場合は、スキャンを終了します。

クリアチャンネルスキャン機能を使う

電波がなく、他の無線機器が使用していないチャンネルを探す機能です。この機能を使うとワイヤレスマイクを使うことができる空きチャンネルを簡単に探すことができ、混信を避けた設定が可能です。GP/CH選択機能で選択されているGP（グループ）に登録されている周波数の中から空きチャンネルを探します。

なお、以下の手順のほかに、＋ボタンを押しながらチューナー1またはチューナー2のPOWERスイッチをONにすることでも、ONにしたチューナーのクリアチャンネルスキャン動作を開始できます。

1 MENU SELECTボタンを押して、RX1/2メニューを表示させる。

2 ＋または－ボタンを押して、CLR CH SCAN画面を表示させる。

3 設定項目が点滅するまでSETボタンを長押しする。

4 CLR CH SCAN画面で、＋または－ボタンを押して、YESを選択する。

スキャンが始まります。電波のないチャンネルを検出したら、周波数を表示してスキャンを停止します。
NOを選択すると、スキャン機能を終了します。

5 検出されたチャンネルを使用するときは、＋または－ボタンを押してSETを選択し、SETボタンを押す。

ワイヤレスリモートコントロール機能が動作している場合は、トランスミッターにGP/CH設定を送ることができます。

別の空きチャンネルを探す場合は、＋または－ボタンでCONTINUEを選択し、SETボタンを押してください。

ご注意

- グループ内の周波数を2周探しても電波のないチャンネルが見つからなかった場合は、スキャンを終了します。
- 本機で設定した受信チャンネル（CH）が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH画面が表示されます。
  その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューでREMOTEをOFFにして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

秘匿通信機能を使う

ソニー製デジタルワイヤレストランスミッターで暗号化された信号を受信します。秘匿通信機能を使うと他者からの盗聴を防ぐことができます。
秘匿通信機能を使用する場合には、次のいずれかの方式を選択します。
暗号鍵方式（SECURE KEY）：トランスミッターで自動的に作られる暗号鍵をトランスミッターとレシーバーの双方で使用し、1対1での秘匿通信を行う方式
パスワード方式（PASSWORD）：ユーザーの決めた8文字までのパスワードを、複数台のトランスミッターとレシーバー（本機）に設定できる方式。グループでの秘匿通信が可能です。

ご注意

トランスミッターとレシーバー（本機）の秘匿通信機能設定は同じ方式に設定してください。

暗号鍵方式を使う

トランスミッターとレシーバー（本機）の1対1の秘匿通信を行うときに設定します。
外部から読むことのできない暗号鍵をトランスミッター内で自動生成し、USB機能やワイヤレスリモートコントロール機能を使用してレシーバーに転送することで秘匿通信を行います。
トランスミッターとレシーバー（本機）の暗号鍵は、暗号鍵の転送時に毎回新た

に自動生成されるので強固な秘話伝送が可能です。
トランスミッターとレシーバー（本機）の暗号鍵は電源 OFF 時にも保持されます。一度電源を OFF にしてから運用を再開する場合でも、前回と同じ秘匿通信が可能です。

1 レシーバーの準備

① 本機の ENCRYPTION 画面（RX1/2 メニュー）で、設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。
② ＋または－ボタンを押して SECURE KEY を選択し、SET ボタンを押す。

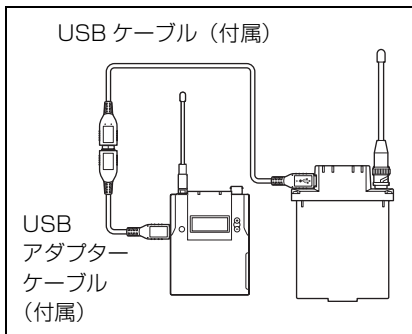
2 トランスミッターの準備

暗号鍵の転送を行うトランスミッターを SECURE KEY に設定します。

◆ トランスミッターの操作方法は、トランスミッターの取扱説明書をご覧ください。

3 暗号鍵の交換

本機の暗号鍵交換方法の選択画面で USB または REMOTE（ワイヤレスリモート）を選択し、暗号鍵を交換します。
ワイヤレスリモートコントロール機能が OFF の場合は、REMOTE は選択できません。

USB を選択した場合
付属の USB ケーブルと USB アダプターケーブルで、本機とレシーバーを接続します。（USB ケーブルを接続する場合には、USB 端子側にあるアンテナを外す必要があります。）

USB 接続すると、自動的に暗号鍵が交換され、暗号鍵方式の秘匿通信が始まります。USB ケーブルを外します。

REMOTE（ワイヤレスリモート）を選択した場合
本機とペアリングのできているトランスミッターを探索します。
トランスミッターを発見すると暗号鍵が交換され、暗号鍵方式の秘匿通信が開始されます。

パスワード方式を使う

複数のトランスミッターと複数のレシーバー（本機）の組合せで秘匿通信を行うときに設定します。
ユーザーの決めた同一のパスワードがトランスミッターとレシーバー（本機）に設定してあれば、音声の復調が可能です。複数のトランスミッターと複数のレシーバー（本機）をグループとして運用したり、1 台のトランスミッターを複数

のレシーバー（本機）で同時に受信するときに便利です。

1 本機のENCRYPTION画面（RX1/2メニュー）で、設定項目が点滅するまでSETボタンを長押しする。

2 ＋または－ボタンを押して、PASSWORDを選択し、SETボタンを押す。

3 本機で最大8文字のパスワードを入力する。

＋：文字リストが表示されます。＋または－ボタンで希望の文字を選んでSETボタンを押すと、現在のパスワードの最後に文字が追加されます。
－：現在のパスワードの最後の文字を削除します。
SET：設定した文字を決定します。
パスワードの編集が終わったら、SETボタンを押して決定します。パスワードの途中に文字を挿入したり、途中の文字を削除することはできません。

4 トランスミッターの秘匿通信機能設定をPASSWORDに設定する。

5 トランスミッターに本機と同じ最大8文字のパスワードを設定する。

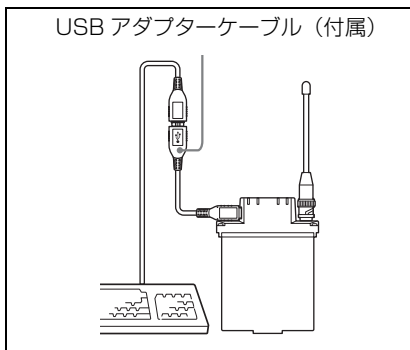
◆ トランスミッターの操作方法は、トランスミッターの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

パスワードは定期的な更新をおすすめします。

USBキーボードの使いかた

市販の日本語106 USBキーボードを本機に接続することで、ディスプレイ上のメニューを操作したり、秘匿通信機能のパスワードを入力したりすることができます。
本機のUSB端子はMicroUSB端子です。キーボードとの接続には、付属のUSBアダプターケーブルを使用してください。（USBケーブルを接続する場合には、USB端子側にあるアンテナを外す必要があります。）

USBアダプターケーブル（付属）

メニュー操作を行うには

USBキーボードを使用して、本体のボタン操作と同様の操作が行えます。
本体ボタンとUSBキーボードの対応は、下記のとおりです。

本体ボタン	USBキーボード
MENU SELECT	←　→
SET	Enter
＋	↑
－	↓

文字を入力するには

秘匿通信機能設定時のパスワード入力をUSB キーボードで行えます。

USB キーボードで入力できる文字：0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z

特殊キー：Back space（BS）、Delete（DEL）

ご注意

- キーボードの 10 キー部は使用できません。
- USB ハブやポインティングデバイスなどの機能を持った多機能キーボードは接続できません。
- 接続したキーボードの電源は、本機の USB 端子から供給されます。電源容量は 100mA です。それ以上の消費電流を必要とするキーボードは接続できません。
- キーボードを接続したままで放置しないでください。本機の電池が早く消耗します。
- 文字編集は、文字キーと BS、DEL、Enter キーで行ってください。

メニューの表示と詳細設定

メニューの構成と階層

メニューの構成

本機のメニューには次の 3 種類があります。

ユーティリティーメニュー

メーター画面やデジタルワイヤレスアダプター DWA-01D と組み合わせたときの機能、有機 EL ディスプレイの設定機能などが含まれるメニューです。

RX1/RX2（チューナー 1/2）メニュー

チューナーを設定する機能が含まれるメニューです。

TX1/TX2（トランスミッター仮想 1/2）メニュー

本機（チューナー 1 またはチューナー 2）と通信しているトランスミッターの現在の設定が確認できます。

メニューの基本操作

1 MENU SELECTボタンを押して、設定または変更したいメニューを選ぶ。

ボタンを押すごとに、UTILITY、RX1、TX1、RX2、TX2、UTILITYの順番で切り替わります。

2 ＋または－ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。

＋または－ボタンを押すごとに、選択したメニュー内の設定項目名が変わります。

◆ 詳しくは、「メニューの階層」（18ページ）をご覧ください。

3 設定項目が点滅するまでSETボタンを長押しする。

4 ＋または－ボタンを押して、設定を変更する。

5 SETボタンを押して、変更内容を確定させる。

ご注意

電源スイッチがOFFになっているチューナーのメニューは表示されません。

ユーティリティーメニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（18 ページ）をご覧ください。

ユーティリティーメニューは、メーター画面など本機の基本設定に関わる項目が含まれているメニューです。
ここでは機能の説明と変更項目を説明します。下線表記は工場出荷時の設定です。

ご注意

ディスプレイ右上に「ADAPTER」と表示される機能（AES/EBU LVL@MIC 機能から ANALOG OUTPUT1 機能まで）は、別売りのデジタルワイヤレスアダプター DWA-01D と組み合わせた場合の AES/EBU 出力に関する機能です。カムコーダーとの組み合わせでは機能しません。

AES/EBU 出力基準レベルの選択（AES/EBU LVL@MIC）

別売りのデジタルワイヤレスアダプター DWA-01D の AES/EBU 出力の基準レベルを選択します。
受信しているトランスミッターのオーディオ入力レベル設定が LINE の場合（ヘッドルームが－ 20dBFS の信号）、この機能の設定は無効です。

ご注意

アナログ出力では機能しません。

<u>－ 36dBFS LINEAR</u>：トランスミッターから送られてきた音声を、ヘッドルーム 36dB を保ったまま出力します。
－ 20dBFS LIMITER：通常の AES/EBU インターフェースに合わせて、基準レベルを－ 20dBFS に変更します。トランスミッターから送られてきた音声はコンプレッサー処理されます。
－ 20dBFS ST LIMIT：－ 20dBFS LIMITER モードと同様に基準レベルを－ 20dBFS に変更し、チューナー 1 とチューナー 2 の音声にかかるコンプレッサーをリンク動作させます。2 台のトランスミッターでステレオ音声素材を伝送するときに使用します。

同期信号の選択（SYNC SOURCE）

別売りのデジタルワイヤレスアダプター DWA-01D を装着した場合の本機の同期信号源を選択します。

32kHz − 6% から 96kHz ＋ 6% までの外部同期（ワードクロック）に対応します。

◆ 同期信号をロックさせる方法について詳しくは、ワイヤレスアダプター DWA-01D の取扱説明書をご覧ください。

INTERNAL：内部の同期信号（48kHz）で動作します。
AUTO：外部からの同期信号を優先し、外部同期が無くなった場合には自動的に内部同期に切り替わります。現在選択されている同期信号を「INTERNAL」または「EXTERNAL」で表示します。
EXTERNAL：外部からのワードクロック信号に同期して動作します。現在の同期状態を「UNLOCK」または「LOCK」で表示します。

同期信号の終端（WORD SYNC 75ohm）

デジタルワイヤレスアダプター DWA-01D の WORD SYNC 入力端子を 75Ω 終端する機能です。

ON：75Ω で終端する。
OFF：75Ω で終端しない。

ご注意

本機の電源を OFF にすると終端は開放されます。

アウトプット 1 出力の選択（ANALOG OUTPUT1）

デジタルワイヤレスアダプター DWA-01D の OUTPUT1 端子に出力する信号を選択します。
OUTPUT2 端子を AES/EBU 出力として使用するときは、OUTPUT1 端子をサブ出力として使用することができます。

RX1：チューナー 1 の受信音声信号を出力します。
RX2：チューナー 2 の受信音声信号を出力します。
RX1+2：チューナー 1 とチューナー 2 の受信音声信号をミックスして出力します。

累積使用時間の表示（TIME）

使用時間の目安として、本機の累積使用時間を表示します。
工場出荷時の設定は、00:00 です。

時間表示をリセットするには

1 時間表示が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

2 −ボタンを押し、「00:00 RESET」が表示された状態で SET ボタンを押す。

ディスプレイの明るさ設定（BRIGHTNESS）

有機 EL ディスプレイの明るさを 10 段階で調整します。
設定できる値は下記のとおりです。

（暗）１２３４５６７８９１０（明）

ディスプレイの自動消灯（DIMMER MODE）

一定時間後、有機 EL ディスプレイの明るさを減光したり、消灯させる機能です。

AUTO OFF：30 秒後に消灯します。SET や＋または－ボタンを押すと点灯します。
AUTO DIMMER：30 秒後に減光します。SET や＋または－ボタンを押すと点灯します。
ALWAYS ON：ディスプレイの明るさ設定機能で設定された明るさで常時点灯します。

工場出荷設定に戻す（FACTORY PRESET）

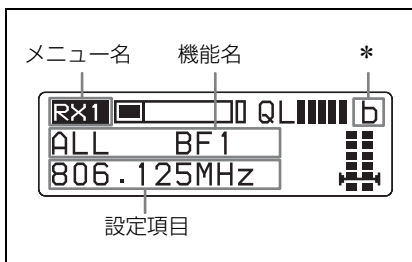
UTILITY メニューの各設定項目を工場出荷時の状態に戻します。
SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。＋または－ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すと、本機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ソフトウェアバージョンの表示（VERSION）

本機のソフトウェアバージョンを表示します。

RX1/2（チューナー 1/2）メニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（18 ページ）をご覧ください。

RX1/2 メニューは、本機の主機能であるデジタルワイヤレスレシーバーの機能を設定するメニューです。

* 現在ダイバシティー機能で選択されているアンテナ名称が a または b で表示されます。

グループ / チャンネルの選択（GP/CH）

工場出荷時の設定は、ALL BF1 806.125MHz です。

◆ 詳しくは、「グループ / チャンネルを選択する」（11 ページ）をご覧ください。

アクティブチャンネルスキャン機能（ACT CH SCAN）

アクティブチャンネルスキャンを実行します。

◆ 詳しくは、「アクティブチャンネルスキャン機能を使う」（12 ページ）をご覧ください。

クリアチャンネルスキャン機能（CLR CH SCAN）

クリアチャンネルスキャンを実行します。

◆ 詳しくは、「クリアチャンネルスキャン機能を使う」（13 ページ）をご覧ください。

RF スケルチ機能（RF SQUELCH）

受信中に電波が弱くなって音質が劣化すると、自動的に音声をカットします。
また、隣接した場所で使用され、同一周波数に設定されているソニー製デジタルワイヤレストランスミッターからの混信を防ぐことができます。

20dBμ：RF スケルチを 20dBμ に設定する。
OFF：RF スケルチ機能を実行しない。

秘匿通信機能（ENCRYPTION）

秘匿通信機能を設定します。

SECURE KEY：暗号鍵方式で設定する。
PASSWORD：パスワード方式で設定する。
OFF：秘匿通信機能を使わない。

◆ 詳しくは、「秘匿通信機能を使う」（14 ページ）をご覧ください。

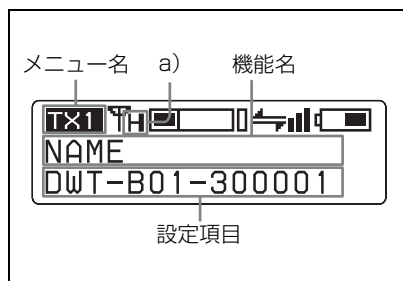
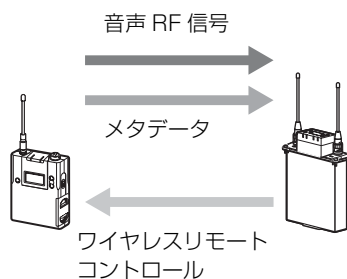
音声信号遅延時間の表示（SYSTEM DELAY）

デジタルワイヤレストランスミッターから本機の音声出力までの音声信号遅延時間を表示します。
デジタル方式のワイヤレスマイクには音声信号の処理時間があるため、トランスミッターの入力からレシーバーの出力までに遅延時間が発生します。この遅延時間表示は、遅延の発生しないアナログ機器の音声信号と組み合わせて取り扱うための重要な情報になります。

D：トランスミッターの入力から本機のデジタル出力までの遅延時間を表示する。
A：トランスミッターの入力から本機のアナログ出力までの遅延時間を表示する。（本機がカムコーダースロットに搭載されている場合は、デジタルインターフェースのみが動作するため、表示されません）

TX1/2（トランスミッター仮想 1/2) メニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（18 ページ）をご覧ください。

ソニーのデジタルワイヤレストランスミッター DWT-B01 は、デジタル音声データだけでなくトランスミッター本体の設定情報もメタデータとして送信します。
本機は、受信したメタデータを TX1/2 メニュー使ってディスプレイに表示させることができます。

a) 受信しているトランスミッターの送信電力設定を表示します。

ご注意

トランスミッターが電源 OFF またはサービスエリア外にいる場合は、「NO DATA」と表示されます。またトランスミッターに機能が搭載されていない場合は「NO FUNCTION」と表示されます。

トランスミッター名称の表示（NAME）

本機で受信しているトランスミッターの名称を表示します。

送信電力設定の表示（RF POWER）

受信しているトランスミッターの送信電力設定を表示します。

オーディオ入力レベルの表示（INPUT LEVEL）

トランスミッターの入力レベル設定を表示します。

ローカットフィルター設定の表示（LCF）

トランスミッターのローカットフィルター設定を表示します。

省電力設定の表示（POWER SAVE）

トランスミッターの省電力設定を表示します。

累積使用時間の表示（TIME）

トランスミッターの累積使用時間を表示します。

+48V 電源設定の表示（+48V）

トランスミッターの +48V 電源設定を表示します。

ワイヤレスリモート機能（RF REMOTE）

本機と本機と組み合わせて使うトランスミッターとの間で、ワイヤレスリモートコントロール機能を使用する場合に設定が必要な項目です。

OFF：ワイヤレスリモートコントロール機能を停止する。
ON：すでにペアリングされている相手とワイヤレスリモートコントロール機能を開始する。
PAIRING：新たにペアリングを実行する。

◆ 詳しくは、「ワイヤレスリモートコントロール機能を使う」（24 ページ）をご覧ください。

ワイヤレスリモートコントロール機能を使う

本機は、TX1/2（トランスミッター仮想1/2）メニューでトランスミッターの設定（ローカットフィルターやアッテネーター操作、電源制御など）を制御できるワイヤレスリモートコントロール機能を搭載しています。これにより現場での運用や管理がより簡単に行えます。
ワイヤレスリモートコントロールには、デジタルワイヤレスオーディオの RF 帯域に影響を与えない 2.4GHz 帯 IEEE802.15.4 方式を採用しています。
この機能は、ワイヤレスリモートコントロール機能で、制御したいトランスミッターと本機をペアリングすることにより使用可能になります。

ご注意

お使いになるトランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合しているか、付属のトランスミッターソフトウェア対応表で事前に確認してください。
トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない場合、ワイヤレスリモートコントロール機能が動作しないことがあります。正しく動作させるにはソフトウェアをアップデートする必要があります。なお、ソフトウェアのアップデートについては、ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。

ペアリングするには

ペアリングとは、ワイヤレスリモートコントロール機能で操作を行いたいトランスミッターと本機の対（ペア）を作ることです。
以下の手順で設定します。
なお、以下の手順のほかに、－ボタンを押しながらチューナー１またはチューナー２の POWER スイッチを ON にすることでも、ON にしたチューナーとトランスミッターとのペアリング動作を開始できます。

1 MENU SELECT ボタンを押して、TX1/2 メニューを表示させる。

2 ＋または－ボタンを押して、RF REMOTE 画面を表示させる。

3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

4 ＋または－ボタンを押して、PAIRING を選択する。

5 SET ボタンを押して決定する。

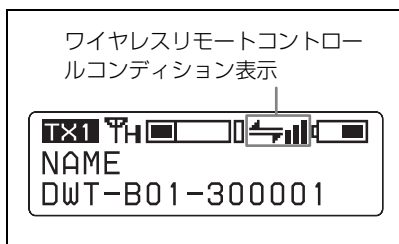
制御したいトランスミッターを、あらかじめペアリングモードに設定してください。

◆ 詳しくは、トランスミッターの取扱説明書ご覧ください。

トランスミッターの探索を開始し、ディスプレイにペアリング可能なトランスミッター名が表示されます。
探索中に本機の操作ボタンを押すと、ペアリングモードはキャンセルされます。

6 表示されたトランスミッターの名前の中から＋または－ボタンを押して、ペアリングしたいトランスミッターを選択する。

7 SET ボタンを押して決定する。

選択したトランスミッターとの通信が始まり、ディスプレイにワイヤレスリモートコントロールコンディション表示が表示されます。
コンディションレベル（ ）が上がり、リモートコントロールができるようになります。

ご注意

本機で設定した受信チャンネル（CH）が、トランスミッター側でワイヤレスリモートコントロール機能との併用を禁止されているチャンネルの場合は、UNMATCH 画面が表示されます。
その場合は、本機の受信チャンネルを変更してください。禁止チャンネルを使用したいときは、トランスミッターのメニューで REMOTE を OFF にして禁止チャンネルを解除し、手動でトランスミッターのチャンネルを設定してください。

ワイヤレスリモートコントロールコンディション表示について

ワイヤレスリモートコントロール機能の電波状態を 4 段階で表示します。

：通信状況が良好
：通信状況がやや良好
：通信状況がやや良くない
：通信状況が良くない
：ペアリングされたレシーバーと通信できない

ワイヤレスリモートコントロール機能をOFF にしている場合には、このアイコンは表示されません。

前回のペアリング設定でワイヤレスリモートコントロール機能を使うには

TX1/2 メニューで RF REMOTE を選択し、設定項目を ON にする。

ご注意

- RF REMOTE 設定を ON にしても、前回ペアリングされていたトランスミッター以外との通信はできません。別のトランスミッターとワイヤレスリモートコントロール機能を使うには、あらためてそのトランスミッターとペアリング設定してください。
- 複数のトランスミッターとペアリングすることはできません。

本機からコントロールできる機能

- グループ / チャンネル設定
- RF 送信電力設定
- オーディオ入力レベル設定のアッテネーター
- ローカットフィルター設定
- 省電力設定
- ＋ 48V 設定

◆ トランスミッターの設定方法について詳しくは、「本機でトランスミッターの設定を変更する」（27 ページ）をご覧ください。

ワイヤレスリモートコントロール機能を停止するには

TX1/2 メニューで RF REMOTE を選択し、設定項目を OFF にする。

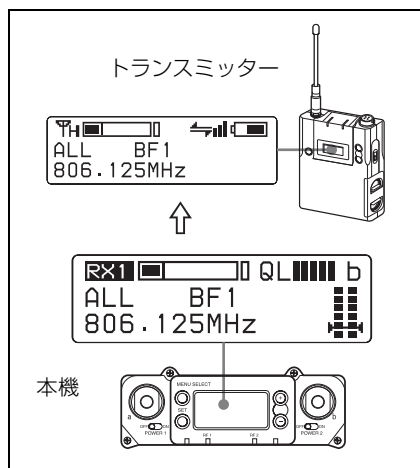
ワイヤレスリモートコントロール機能に関するご注意

本機のワイヤレスリモートコントロール機能は 2.4GHz 帯を使用しているため、他の機器からの電波干渉を受ける可能性があります。

- ペアリングが完了しない場合（Pairing fail が表示された場合）は、再度ペアリングを行ってください。
  一定時間内にトランスミッターとレシーバーの通信が完了しなかったことが考えられます。
  近くで他のレシーバーがペアリングを行っている場合、完了しづらくなることがあります。
- リモートコントロールがつながりにくい場合は、RF REMOTE 画面でワイヤレスリモートコントロール機能をOFF/ON し、再度トランスミッターと接続し直すことにより改善（干渉の少ないチャンネルに移動）する場合があります。

本機でトランスミッターの設定を変更する

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（18 ページ）をご覧ください。

本機とペアリングされたトランスミッターの設定を、RX1/RX2 メニューのグループ / チャンネル設定画面や TX1/2（トランスミッター仮想 1/2）メニューで変更することができます。

グループ / チャンネルの設定（GP/CH）

この設定のみ RX1/RX2 メニューの GP/CH 画面で行います。

◆ 詳しくは、「グループ / チャンネルを選択する」（11 ページ）をご覧ください。

送信電力の設定（RF POWER）

トランスミッターの送信電力を変更します。

オーディオ入力レベルの設定（INPUT LEVEL）

トランスミッターの入力レベル設定が MIC に設定されている場合、アッテネーターの値を変更します。
選択できるアッテネーターの値は、トランスミッターの機能により異なります。

ローカットフィルターの設定（LCF）

トランスミッターのローカットフィルター設定を変更します。

ご注意

選択できる周波数は、トランスミッターの機能により異なります。

省電力設定（POWER SAVE）

電池消耗を抑えるため、ワイヤレスリモートコントロール機能でトランスミッターの電源をスリープに設定することができます。

ご注意

トランスミッターの電源を SLEEP（スリープ）に変更した場合、音声 RF 信号がストップしてメタデータも送信されなくなるため、TX1/2（トランスミッター

仮想 1/2）メニューのデータ表示は、POWER SAVE 画面の SLEEP 以外はすべて NO DATA になります。

+48V 電源設定の変更

（+48V）

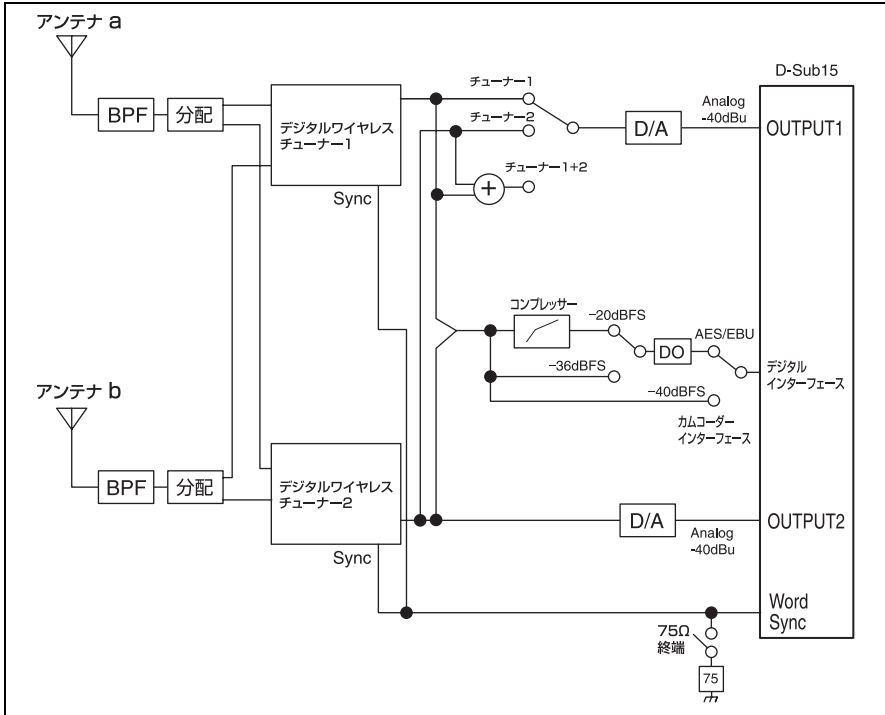
トランスミッターの +48V を ON/OFF できます。

ワイヤレスリモートコントロール機能の設定（RF REMOTE）

OFF：ワイヤレスリモートコントロール機能を停止する。
ON：すでにペアリングされている相手とワイヤレスリモートコントロール機能を開始する。
PAIRING：新たにペアリングを実行する。

◆ 詳しくは、「ワイヤレスリモートコントロール機能を使う」（24 ページ）をご覧ください。

ブロックダイヤグラム

アンテナ a
アンテナ b
BPF
分配
BPF
分配
デジタルワイヤレス
チューナー1
デジタルワイヤレス
チューナー2
Sync
Sync
チューナー1
チューナー2
チューナー1+2
D/A
D/A
Analog
-40dBu
Analog
-40dBu
D-Sub15
OUTPUT1
OUTPUT2
Word
Sync
コンプレッサー
−20dBFS
−36dBFS
−40dBFS
AES/EBU
DO
デジタル
インターフェース
カムコーダー
インターフェース
75Ω
終端
75

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	カムコーダーのスロットもしくはDWA-01Dに正しく挿入されていない。	奥までしっかり装着し、レシーバーの装着ネジでしっかり固定してください。
音が出ない。	トランスミッターとレシーバーのチャンネルが違っている。	トランスミッターとレシーバーのチャンネルを合わせてください。
	トランスミッターの電源がOFFになっている。	トランスミッターの電源、電池を確認してください。
	秘匿通信機能の設定が、レシーバーとトランスミッターとで違っている。	トランスミッターとレシーバーの秘匿通信機能の設定が同じになっているか確認してください。
	DWA-01Dに装着時、同期信号の設定が適切ではない。	同期信号の選択（SYNC SOURCE）機能で同期信号をINTERNALに設定するか、外部同期信号で運用している場合には、同期信号の接続が正しいことを確認しAUTOまたはEXTERNALに設定してください。
音が小さい。	トランスミッターのアッテネーターの設定値が大きい。	トランスミッターのアッテネーターを適正量に設定してください。
	AES/EBU基準出力レベルが-36dBFS LINEARになっている。	出力基準レベルを用途に応じて設定してください（19ページ）。
音が歪む。	トランスミッターのアッテネータの設定値が小さい。または0である。	トランスミッターへの入力音量が過大です。音が歪まないようにトランスミッターのアッテネーターを設定してください。
	トランスミッターの入力レベルをMIC設定のまま、LINEレベルの信号を入力している。	トランスミッターの取扱説明書を参考に、入力レベルをLINEに設定してください。

症状	原因	対策
音切れ、ノイズが発生する。	トランスミッターの電源を切っても、レシーバーの RF インジケーターが点灯している。	周辺に妨害波が出ています。まず、レシーバーの RF インジケータが点灯していないチャンネルに設定し、次に、トランスミッターを同じチャンネルに設定してください。2 本以上のトランスミッターを使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。クリアチャンネルスキャン機能が便利です。
	2 台以上のトランスミッターが同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上のトランスミッターは使用できません。周波数リストに従って各トランスミッターのチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。	本機のチャンネルプランは、複数台のトランスミッターを使用する場合、それぞれのトランスミッターが混信しないように設定してあります。使用するトランスミッターを同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
ワイヤレスリモートコントロールができない。	ペアリングされていない。	ペアリングを行ってください（25 ページ）。
	通信可能な距離以上にトランスミッターと離れている。	コンディションレベルを確認し、レベルが低い場合はトランスミッターとの距離を近くしてください。
	ペアになっていたトランスミッターが別のレシーバーとペアリングされた。	再度、コントロールしたいトランスミッターとペアリングを行ってください。
	トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない。	付属のトランスミッターソフトウェア対応表で、トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合しているか確認してください。適合していない場合は、ソフトウェアをアップデートする必要があります。ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。
USB キーボードが動かない。	対応できない USB キーボードを使用している。	使用できる USB キーボードの条件を確認してください（16 ページ）。
ディスプレイが暗い。	ディスプレイの明るさが低く設定されている。	メニュー設定でディスプレイの明るさを調節してください（20 ページ）。

使用上のご注意

使用・保管場所

- 本機は周囲温度0℃～50℃の範囲で動作します。
- 本機を電力機器（回転機、変圧器、調光器等）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信アンテナの位置やワイヤレスマイクロホンの使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置でご使用ください。
- 本機を騒音の多い場所や振動の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定のS/Nを満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには、次のようなものがありますので、十分に注意してください。
  - 回転機、変圧器などの付近
  - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
  - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
  - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合

  対策としては、影響を受ける条件からできるだけ離したり、緩衝材を敷くなどの処理をしてください。

お手入れ

- 水分やほこりの多い所、活性ガスにさらされる所で使用したあとは、早めにコネクター部や本機表面のお手入れを行ってください。お手入れを怠ったり、このような場所で長時間使用したりすると、機器の寿命を縮めるおそれがありますので、ご注意ください。
- 表面やコネクター部の汚れは、乾いた柔らかい布でふきとってください。シンナーやベンジンなどの薬品類は、表面の仕上げをいためますので使わないでください。

本機使用上の注意

この機器のワイヤレスリモートコントロール機能で使用する周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要さない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の電源を再度入れなおし使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、「ソニー業務用商品相談窓口」までお問い合わせください。

2.4DS1

この無線機器は2.4GHｚ 帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10m です。

送信機のソフトウェアバージョンについて

お使いになるトランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合しているか、付属のトランスミッターソフトウェア対応表で事前に確認してください。
トランスミッターのソフトウェアバージョンが本機との組み合わせに適合していない場合、ワイヤレスリモートコントロール機能が動作しないことがあります。正しく動作させるにはソフトウェアをアップデートする必要があります。なお、ソフトウェアのアップデートについては、ソニーのサービス窓口へお問い合わせください。

受信電波が弱い場合の音声劣化について

デジタルワイヤレスシステムの場合、電波が届く限界距離まで音声品質が一定に保たれます。さらに受信電波が弱くなると、最終的にはデータの同期がとれなくなり音声断となります。そのような特性を踏まえ、ソニーのデジタルワイヤレスシステムでは電波の到達限界点から音声断にいたる音声劣化の領域において、大きなノイズ音の発生を抑え、極力自然に音声が劣化していくようデジタル処理を行っております。

主な仕様

チューナー部

受信方式　スペースダイバーシティ方式
回路方式　ダブルスーパーヘテロダイン
受信周波数　806.125 MHz ～ 809.750 MHz
チャンネルステップ
　125 kHz
局部発振　水晶制御PLL シンセサイザー
アンテナ端子　BNC-R、50Ω
感度　20dBμ 以下（周囲温度25 ℃、ビットエラーレート＝1 × 10^{-5} 時、S/N 劣化なし）

オーディオ部

出力端子　D-sub 15 ピンコネクター（凸）× 1
基準出力レベル　アナログ：－ 40dBu
　デジタル：－ 36dBFS/－ 20dBFS 切り換え
ダイナミックレンジ
　106dB 以上（A-weighted）
全高調波歪率　0.03% 以下（0dBu= 0.775Vrms）
音声遅延時間　2.1msec（DWA-01D と組み合わせた場合のアナログ出力）
　1.9msec（カムコーダーとのデジタル接続およびDWA-01D と組み合わせた場合のAES/EBU 出力）

一般

外形寸法図（単位：mm）

質量　約 280 g（付属アンテナ取付け時）

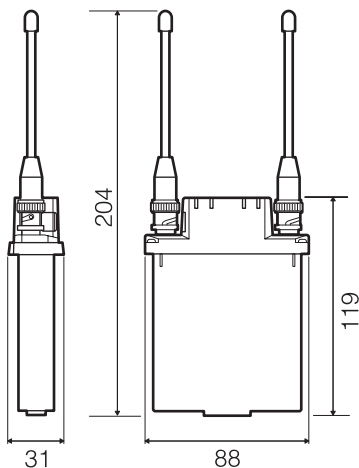
ワイヤレスリモートコントロール
2.4GHz 帯
IEEE802.15.4 準拠

電源電圧　DC7V

消費電流　500mA 以下（DC7V 時）

許容動作温度　0 ℃～＋ 50 ℃

許容保存温度　－ 20 ℃～＋ 60 ℃

付属品　ヘリカルアンテナ（2）
ホイップアンテナ（2）
USB アダプターケーブル（1）
USB ケーブル（1）
保証書（1）
取扱説明書（1）
CD-ROM（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は、電波法により工事設計の認証を受けております。

本機の工事設計の認証番号は、機銘板に表示されております。機銘板をはがしたり、本機の内部やアンテナを改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合が悪いときは

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニー営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/